

令和2年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

第1回 ICT教育推進委員会

6月17日(水)開催

講師 富山大学大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川 春生 先生

今年度は、ICT活用推進に向けた各校での校内研修の充実等の実践を中心に活動を進めます。今回は、富山大学大学院教職実践開発研究科准教授長谷川春生先生をお招きし、これからのICT活用推進に向けた講話をいただき、委員がグループに分かれて、互いの学校の研修計画について意見交換等を行いました。

長谷川先生からは、新型コロナウイルスの影響による臨時休校期間中のオンライン授業の実践の紹介があり、「GIGAスクール構想(下記参照)」の実現についての最新情報、今後学校で進めていきたい取組等について教えていただきました。

その後の意見交換では、今後ICT活用の校内研修をどう進めていくかということについて、どのグループでも熱心に話し合う姿が見られました。話合いで出た意見の一部をご紹介します。

- ・活用の現状は、先生方個人によって差がある。
→一人一人のスキルに合わせた研修会を実施したい。
- ・プログラミング教材に触れる機会を多くとるようにしたい。
- ・どの機器(ソフト)でどんなことができるのかなどの機能を周知することも大切だと思うので、研修会に取り入れたい。
- ・研修の機会をどうもつか(いつ、どうやって時間をとるか)ということとは、今後検討していかなければならない。



今後は、ICT教育推進委員の皆さんを中心に校内研修を進め、思考を深めるICTの効果的な活用を図りたいと考えています。

GIGA スクール構想とは…

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

ことを目指しています。

「1人1台端末」の環境では

- ・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる
- 子供たち一人一人の反応を踏まえたきめ細かな指導等、双方向型の授業展開が可能に

- ・各人が同時に別々の内容を学習できる
 - ・各人の学習履歴が自動的に記録される
- 一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能に

- ・一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる
 - ・各自の考えを即時に共有し、共同編集ができる
- 全ての子供が情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れられる



文部科学省リーフレット「GIGAスクール構想の実現へ」より

「生徒指導連絡会」は、生徒指導上の諸課題について市内各校で連携・協力した対応を図るため、各校の生徒指導主事の参加を得て、今年度初めて開催しました。今回は「ネット利用、ネットルールに関する指導について」をテーマに、インターネット利用の問題点やネットルールを作る意義、ネットルールを作る際のポイント等を確認したのち、校種ごとや校区ごとに分かれて共通理解や意見交換等を行いました。話し合いでは、次のような意見が出されました。



【小学校・義務教育学校（前期）】

- ・これまで学校でネットルールを作ったことがないが、望ましいメディア利用についての取組をしている。
- ・児童がネット利用について正しい知識を身に付けられるための講演会等を開いたのち、児童会で話し合うなどしてルール作りに取り組むと、子供が納得してルール作りができるのでよいと思う。
- ・中学校区で話し合い、基本を統一した形にしていけるべきではないか。
- ・知らない人とオンラインゲームをしていて、個人情報を開かれたという児童の声があった。ゲーム（ネット）で知り合った人と会わない、個人情報を伝えないなどのルールは、徹底したほうがよい。

【中学校・義務教育学校（後期）】

- ・生徒が中心となり、ネットルールを守るべき目標として掲げ、委員会で啓発の取組をしている。
- ・ネットルールはあるが、生徒の様子を見てみると、守れていない現状があると感じている。
- ・ネットルールについては、よい面も悪い面も生徒たちに教え、根拠を明確にして設定すれば、守ろうという意欲が高まるのではないか。



児童生徒の望ましいネット利用の推進については、今後も様々な形で取組を進めていきたいとします。各学校においても、児童生徒の発達段階や実態に応じた指導・支援を進めていただくことを、お願いいたします。

第1回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

7月8日（水）開催

「氷見市いじめ問題対策連絡協議会」は、いじめの防止等のため、学校、教育委員会、そして、関係する機関及び団体の連携を図るために、氷見市いじめ問題対策連絡協議会設置要綱に基づいて、年に2回開催しています。本委員会の委員長である谷内口まゆみ校長先生（小学校長会長）に司会をしていただき、いじめ問題について協議しました。委員の皆さんからは、次のような意見が出されました。



- ・現在学校では、いじめアンケートや教育相談の実施、教職員で共通理解を図った対応等を進めている。
- ・いじめの早期発見のためにも、アンテナを高くし、何とか子供の声をキャッチしたいという思いで日々取り組んでいる。
- ・いじめ問題については、できるだけ小さい集団で、子供たちの反応を見ながら指導できたらよいと思う。
- ・いじめ防止に関する啓発ビデオや関連する動画の視聴も、いじめ予防には効果があるのではないか。
- ・子供たちは現在の学校生活でもストレスを感じている。今こそ授業を大切に、少しでも楽しく過ごすことができるよう心がけていきたい。
- ・目に見えないいじめ（SNSにまつわるもの）に対して、どう対策をとっていくかが大きな課題だ。
- ・SNSに書き込まれたことは、後から回収することはほぼ不可能であるということをお子供たちに伝えたい。
- ・学校現場は大変だと思う。協力できることは話をし、連携していきたい。

教育委員会事務局として、協議会での貴重な意見や提案を参考にして、関係機関等との連携を一層深め、いじめ防止対策を推進していきたいと考えています。各学校においても、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を着実に進めていただけますよう、お願いいたします。

With コロナ時代の学習指導 ～学校の取組～

氷見市の子供たちの学びを保障するために各校が行っている様々な工夫を紹介します。

学びに向かう意欲を高めるために

- 健康意識を高める**保健指導**を継続的に実施し、児童の不安を軽減している。
- 地域教材**や**体験活動**を取り入れ、児童の興味・関心を引き出す課題を設定している。
- 「学習課題を掴む」「考えをもつ」「考えを話し合う」「まとめをする」「自分の学びを振り返る」という学習活動の流れを提示し、児童が**見通し**をもって学習に取り組むことができるようにしている。

基礎・基本を定着させるために

- 算数科では、基礎的な問題を厳選したプリントに**繰り返し**取り組ませている。
- 誤答**等から児童の実態を把握して補充プリントを作成し、活用している。
- 授業の初め5分間の**帯学習**（計算練習）や定期的な**ミニテスト**（既習内容の確認）を実施している。

学校だからできること（子供同士の「学び合い」）を進めるために

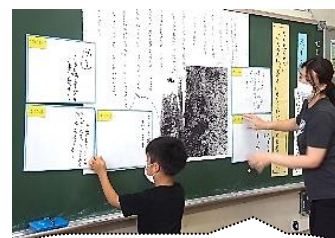
- 学級の**係活動**を充実させ、よりよい学級の雰囲気づくりに努めている。
- 学力向上や人間関係づくりの基本は友達の思いや考えを「聞く」と考え、全校一丸となって「**聞く**」ことを大切にした実践に取り組んでいる。
- 机間指導で児童の考えを把握し、**意図的指名**等で学び合いにつないでいる。
- 全体的話し合いでは、ネームプレートやハンドサインの活用、挙手、全員指名等を取り入れ、児童**一人一人の考えが位置付く**ようにしている。
- タブレット**と**xSync**、**ホワイトボード**、**付箋**等を活用する、**ワークシートを交換**して読み合ったり書き込んだりするなどして、友達の考えに触れたり意見交換したりすることができるようにしている。

家庭学習を充実させるために

- 児童に**週案**（週の学習予定）を配付し、見通しをもって家庭学習に取り組むようにしている。
- 予習課題を出す。**自分で課題を見付け**て学習できるように、課題の出し方を工夫している。
- 自主学習ノート**の**書き方**をパターン化し、万一休校となっても自分で学習できるように指導している。
- ホームページに学習の**支援となるサイトのURL**を**掲載**している。
- プリントやドリル学習を家庭学習の課題として出す際、解答も併せて配付し、**家で丸付け**を行った後、違った問題をもう一度解くように指導している。

その他

- 児童が期待を膨らませ、意欲的に学級生活をスタートさせるための「**学級開き**」について校内研修を行った。
- 「学習意欲を高める発問の工夫」、「子供の考えを見取り、適切に支援する机間指導の在り方」について**校内研修**を進めている。
- ホームページに授業の様子（写真）を掲載**し、家庭や地域に伝えている。



ホワイトボードで意見交流
（小学校 国語科）



武道場で距離を確保して
（中学校 音楽科）

「新型コロナと学校」 教育雑誌 7月号より

各種教育雑誌で、新型コロナ禍における学校教育について掲載された記事の中から、一部を紹介します。

With コロナの時代、自分たちの学校は自分たちでつくろう（教職研修7月号 巻頭対談より）

- ・「勉強」なのか「学び」なのかでいうと、学校は「学び」がある空間でないといけない。
- ・学校生活で一番覚えていることは「自分がやったこと」。子供自身の体験・経験は特に大事に。
- ・学級活動のような教育活動がむしろ大事になる。同級生が互いの変化や成長を実感し、先生が目の前にいる子供の変化や成長を理解することに重点化していくのがよい。
- ・目指す方向性を学校現場で共有・共感し、置かれた状況で最もよい方法を選び取り組んでほしい。

新学習指導要領と生徒指導の関連は？（月刊生徒指導7月号より）

- ・「改訂の経緯」に、「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃に、（中略）予測が困難な時代となっている。（中略）このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新しい価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」とある。
- ・学校とは？生徒指導とは？「学びに向かう力、人間性を涵養すること」について、（中略）まさに生徒指導のゴールである自己指導能力の育成や社会性の育成等に当たる。また、（中略）つながる能力（社会的資質・能力及びそれを活用する能力）の育成という観点が重視される。

ALTからのメッセージ

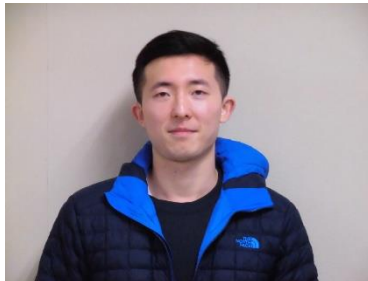


英語や外国語活動等で指導していただいたALTのアメリア先生とペイトン先生が、7月末で勤務を終えられました。自分の夢に向かって、母国アメリカで次のステップに進まれます。メッセージをいただきましたので紹介します。



In English we say, “time flies when you are having fun”. Just like that, the four years I have been an ALT in Himi has passed by so quickly. I have taught at Kamisho, Kaiho, Konan, Miyada, Asahigaoka, Himinoe, and Nadaura elementary schools. I have also taught at Jusan, Nanbu, and Hokubu junior high schools. I have met many wonderful students and teachers at all of my schools. Every day they have made me smile, and taught me so many interesting things. The hearts of children around the world are the same, but I think Himi’s children are very special. I will never forget how much fun I have had seeing them at festivals and talking to them outside of class.

Soon I will return to America, but leaving Japan is so hard. I have made many precious memories and learned so much in my time here. I feel very lucky to have lived in Himi, a beautiful place where I ate the best seafood in the world with some of the kindest people. I hope that one day we can meet again. Thank you so much for making my time in Japan amazing.



Hi everyone, my name is Peyton and I have been an ALT for two years here in Himi. Soon, I will be leaving Himi and returning to America. Little over two years ago, when I was on the flight going to Tokyo, I didn't know what to expect and how my life would be like living on a foreign soil far away from home.

But now I can confidently say that my decision on coming to Japan is easily one of the best decisions I have ever made. My two years living in Japan was everything I could have asked for and more. I wish I could stay here longer but it is time for me to go back and pursue my dream. That being said, I will definitely come back one day to visit Himi and maybe we'll meet again! See you then!

ALT 配置について(7/27～8/7)

1学期が延長し、ALTが5名になったことにより、ALTの配置を下記のように変更します。ご協力をお願いします。

派遣ALT	月	火	水	木	金
デビン	上庄小・海峰小	北部中	上庄小	北部中	海峰小
ジェームス	朝日丘小	南部中	南部中	朝日丘小	南部中・朝日丘小
スチスマン	十三中	十二町小	湖南小	十二町小	湖南小・十三中
アーシラ・クリスタベル	窪小	宮田小	西條中	窪小・西條中	窪小
エドゥアルド	比美乃江小	西の杜学園	西の杜学園	西の杜学園	灘浦小